

第 185 回
定例探鳥会

日時：2002 年 5 月 12 日 (日) 天候：曇り
コース：高来神社 八俣山 浅間山

高麗山も新緑に変わり気持ちのいい風景です、今日は今週の水曜日に別の探鳥会のメンバーが毎年やって来るアオバズクが来ているよとのことで楽しみにしていたのですが残念ながら会えませんでしたが、きっとどこからかこちらをジッと見ていたのでしょう 早々に立ち去りました。

それでも夏鳥のヤブサメ 八俣山手前では渡りの途中のメボソムシクイのジョジョリという鳴き声を聞く事が出来ました、高麗山ではかなり稀なメボソムシクイの出会いでチョット興奮しました。

それと久しぶりにイカルの姿といい声も聞くことが出来ました。

先月は冬鳥、夏鳥が入り混じり季節が変わるのが分かりました、今日は冬鳥達は姿を消し確実に夏鳥の季節がやってきたようです。

来月 6 月の探鳥会ではカラ類の雛と一緒に行動していたりしている事でしょう
解散後にはキビタキ、アオバトの鳴き声も確認され来月が楽しみです。

参加者

- | | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|-------------|
| 1. 根岸春旭 | 2. 近藤 静子 | 3. 矢内寿美子 | 4. 八木 正 | 5. 鈴野 嘉久 |
| 6. 鈴木 逸子 | 7. 里見 和義 | 8. 里見知恵子 | 9. 片倉 暹 | 10. 森田 義雄 |
| 11. 鈴木才代子 | 12. 福田恵美子 | 13. 山田 文則 | 14. 池野 松枝 | 15. 伊藤 武雄 |
| 16. 荒川 計三 | 17. 鹿島 敏夫 | 18. 松下 弓子 | 19. 小谷 茂雄 | 20. 清水 哲子 |
| 21. 南 博 | 22. 南 那津子 | 23. 佐藤 尚志 | 24. (田端 裕) | 25. (西ヶ谷修一) |
| 26. (斎藤常實) | | | | |

参加人数 26 名 (敬称略)

見聞きした鳥

- | | | | | |
|----------------------|-------------|----------|----------|-------------|
| 1. アオサギ | 2. コジュケイ | 3. キジバト | 4. (ドバト) | 5. アオゲラ |
| 6. コゲラ | 7. ツバメ | 8. イワツバメ | 9. ヒヨドリ | 10. ヤブサメ |
| 11. ウグイス | 12. メボソムシクイ | 13. エナガ | 14. ヤマガラ | 15. シジュウカラ |
| 16. メジロ | 17. イカル | 18. スズメ | 19. ムクドリ | 20. ハシボソガラス |
| 21. ハシブトガラス
(解散後) | 22. キビタキ | 23. アオバト | | |

種類数 23 種 (ドバトを含む)

船上探鳥会

5月22日に「船上探鳥会」が行われました。神奈川支部前支部長の浜口さんの計画による平塚の須賀港を出て小田原港沖までのコースで、船の上から鳥を見ようという企画です。参加された山田さんからレポートが届きました。

日 時 : 2002年5月22日 9時~12時 晴れ・無風

集合場所 : 神奈中バス終点「須賀港」

参加者 : 毎年参加する方々 + 新参加者(こまたんからは5名参加)

特別講師 : 神奈川支部幹事の永井さん。東京築地「お魚資料館」学芸員の山田さんはすくい網を持って現れた! トビウオをすくうのだそうです!一同クスクスと笑い出しました!

コース : 相模湾を時計回りに一周します。新 須賀港 10キロ南下してから西へ15キロ(小田原港の南まで) 北上 須賀港に帰るというコースです
11時30分頃、照ヶ崎海岸の岩礁を南側から見ました。
「ちっぽけだな~! しかし後ろの山の状況がとてもしいな~」アオバトは見えなかったが「はは~こんなところが好きなのか」とその良さが分かるような気がしました。

見た鳥 : ハシボソミズナギドリ、オオミズナギドリ、トウゾクカモメ、アカエリヒレアシシギ(赤潮の中)、コアホウドリ(?), コアジサシ、アジサシ、オオセグロカモメ幼鳥(?), ウミネコ、ウミスズメ、シロエリオオハム
(以上15種は、今までで最高だそうです)

他に見たもの : 流れ藻(ホンダワラ sp、赤い油? いや赤潮だ(少し)...よく見ると細かいがプランクトンだ。ツクシトビウオ(九州の筑紫とい説あり)...トビウオは20種あるそうです。
三宅島からの帰りおよそ200匹のトビウオが船の舳先を横切って飛んでいった。波に乗っているように上下して! 突然ギャル達が「あれがオサカナ? ...うそ~」という悲鳴を上げていた。

感想 : ハシボソミズナギドリが一番多かった 最初の群れ(2,000~3,000羽) 次の群れ(20,000くらいか?)...1羽がどのくらい魚を採るのだろうか?
ミズナギドリ達の超能力飛行は驚異だ! 海面すれすれ(10~15cmくらい)で羽根の先端が海水に触れそうだが! しかし魚を捕らえるところは見られなかった。船の縁から海水を覗くとキラキラと光っているものがキレイだ! イワシのうろこだそうです。ハシボソミズナギドリがイワシの群れを追っていると分かるそうです。イワシが採れなくなったのは...まさかこれだけのせいではないと思うのですが?
気になる海の汚れについては 以前と比較しないと分からないので難しいのですが 雨の後などあれだけのゴミが流れ込むので、確実に汚れは増していると思います。専門家の意見では、世界的に見ると「汚れの限界だ」と言っているそうです。とにかく川にゴミを流さず、海を汚さないことだ!
...とはいっても 相模湾のこの海は私にはきれいに見えたし、海水の浄化作用の偉大さとその素晴らしさがだんだんと判ってきたように思えます。海は広いな大きいな...」という唱歌を口ずさんだ。こまたんからの参加者が「こまたんでもこんな船上探鳥会を1年に1度やりたいね」と言っていました。今日はこれ以上の風は考えられないほど静かな海で、素晴らしい小航海でした。

なるほど・ザ 野鳥

野鳥たちの不思議な行動や生態のおもしろい話をインターネットなどから集めています。それらの中から一つか二つずつを紙面に余裕があるときにこのコーナーで御紹介していきます。

双眼鏡なんかおかしくて - 鳥の視力は

鳥は空中を速いスピードで飛びながら、エサを探したり外敵から身を守らなければなりません。そのため、視力が非常に発達しています。タカの目の網膜は人間の8倍も敏感で、高空から人間なら双眼鏡を使っても発見不可能なネズミを見つけることができます。

鳥の目は単に視力がよいだけではなく、遠くのものも近くのものも両方よく見ることができます。しかも、焦点を一瞬にして移動させることができます。そのおかげで、高速で飛んでいる最中、目の前十数センチに現れた昆虫に対しても一瞬にして反応できるわけです。

多くの鳥は、人間より広い視野を持っています。これは鳥の目が頭の両側にあるからです。ヤマシギは、同時に360度を見ることができるほどです。いっぽう猛禽類は人間と同じく、両目が前向きについているため、立体視できて、測距離に優れ、獲物を捕らえるのに適しています。

ねえ～、鳥ってトリ目？ - 夜行性の鳥は

「トリ目」といって暗いところや、夜、目が見えないことをいいますが、鳥は本当に「トリ目」なのでしょう。

フクロウ類やヨタカなどの夜行性の鳥は、もちろん夜も目が見えます。これは網膜に光を感じる棒細胞が多く分布しているからです。この細胞はわずかの光でも敏感に反応することができ、フクロウは暗いところでも獲物を見ることができます。

昼行性の鳥の網膜には、円錐細胞が多く分布しています。これは強い光を感じる色覚を持っている細胞です。でもどの鳥も棒細胞と円錐細胞を網膜に持っていますが、夜行性と昼行性の鳥の場合はこの分布量が異なるということがいえます。昼行性の鳥でも暗いところで目が見えます。実際に、渡りをする小鳥は、夜に渡りをしています。

しかし人間に飼われているゴフトリは、暗いところでは視力が鈍るようです。おそらく長い間人間に飼われているうちに、本来の能力が弱くなったのでしょう。「トリ目」はゴフトリにはあてはまるでしょうが、鳥一般にはあてはまりません。

【お知らせ】

定例カウント調査

吉沢 松岩寺 & 土屋 遠藤原 2002年7月6日(土)

生沢 鷹取山 2002年7月13日(土)

午前6時に高麗ハイツ隣の駐車場に集合。12時頃に集合場所に戻ります。雨天中止。

4月から夏時間に変わっています。参加される方はお間違えのないようお願いします。

連絡先：岩佐 昌夫 0463-55-6142 内山 規矩雄 0463-33-4322 金子 典芳 0463-32-5583

鳥報

アオバト情報

・照ヶ崎のアオバト

5/19 6:00~8:00. 10 数回飛来。瞬間最大飛来数は 7:58 の 13 羽(4 9)。 の 1 羽は肩の
ブドウ色が幼鳥時のようにまだらだった。

5/19 12 時頃。2~3 羽が海水を飲む。

5/26 6:00~11:00. 6 時~7 時 40 分 555 羽、8 時台 238 羽、9 時台 44 羽、10 時台 31 羽。
11 時で観察を打ち切ったが、その頃は 1~5 羽がパラパラと来る程度だった。

5/28 10:30~11:00. 30 分間に延べ飛来数 100+羽。瞬間最大飛来数 40 羽。

・その他の場所でのアオバト目撃報告

5/18 8:32 大磯駅。5 羽が高田公園の稜線に出て、旋回して屋根の向こうに消えた。

5/20 7:40 大磯駅上空 12 羽。海方向から湘南平方向へ飛ぶ。

5/22 7:40 国道 1 号線から照ヶ崎へ下る交差点上空。7 羽。

5/22 8:17 平塚須賀港上空。1 羽が北から海岸方向へ超低空で飛ぶ。

5/22~5/24 の大磯駅での記録(いずれも 7:40~7:45)。5/22 上空通過 60+羽、5/23 上空通過
100+羽、5/24 上空通過 20+羽。通勤途上なので詳しい状況は見えていないが、飛翔方向
はまちまちだが、海から山へ向かうものが多いように感じた。わずか 5 分間の記録だが、
これだけ多くのアオバトが記録されている。

その他の野鳥情報

アオバズク ... 5/14 20:20 大磯駅にてサンダースホームの方からの声を聞いた。

5/15 20:10 大磯駅にて声を聞いた。サンダースホームの方向から聞こえた。

5/16 19:50 大磯駅で声を聞いた。伊豆箱根タクシーの裏の方から聞こえた。

ホトトギス ... 大磯、平塚のいろいろなところで声が聞かれている。観察時間はまちまちで、深夜
にも鳴いている。

5/18 17:00 大磯・石神台 5/19 01:30 大磯・東町

5/23 18:54 高麗山 5/26 06:00 平塚・東豊田、渋田川

5/30 21:00 大磯駅の裏山

オオヨシキリ ... 大磯高校前の海岸歩道。砂防林の中で鳴いていた。

コアジサシ ... 5/19 花水川河口で 6 羽がダイビングを繰り返していた。

吉沢・鷹取山の野鳥

キビタキ、オオルリが観察されています。サンコウチヨウの声も聞かれました。林縁部に多くの
のスズメが入りその中に多数の幼鳥が目立った。シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、エナガの
幼鳥が目につくようになり声だけでは判別が難しくなってきた。

次回の定例探鳥会は 2002 年 7 月 14 日(日)です。午前 7 時 30 分 高来神社に集合。

緑鳩(アオバト) 第 184 号 / 6 月号 発行所 :こまたん

斎藤 常實 0467-51-3543

岩佐 昌夫 0463-55-6142

こまたんホームページアドレス <http://www2u.biglobe.ne.jp/komatan/>
日本野鳥の会神奈川支部ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/wbsj-k/>